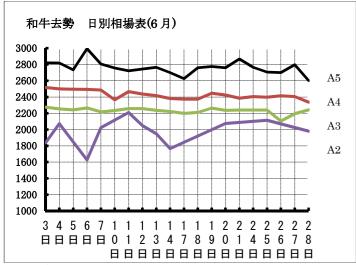
# 月刊しばうら

# 2019年 7月号

# 大動物事業部

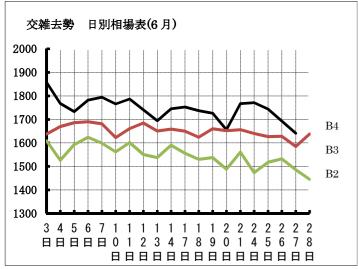
# <6月の相場動向>

和牛去勢 A5 が前月比 37 円高の 2,770 円(前年同月比 31 円安)、A4 が同 1 円安の 2,431 円(同 23 円高)、A3 が同 15 円高の 2,235 円(同 90 円高)、A2 が同 20 円高の 1,962 円(同 98 円高)となり、交雑牛去勢は B4 が前月比 5 円安の 1,757円(前年同月比 102 円高)、B3 が同 18 円安の 1,649 円(同 166 円高)、B2 が同 31 円安の 1,541円(同 197 円高)、乳牛去勢は B2 で前月比 14 円安の 1,015円(前年同月比 21 円安)となった。和牛は入梅や末端需要の不振により前月のもちあい。交雑牛は出荷頭数の減少もあり前月より若干下がったものの依然として堅調な相場となっている。和牛、交雑ともに下位等級の前年同月比の数字の高騰が際立っている。



#### 和牛去勢 (月平均)

A5	2,770 円	(前年同月比	98. 9%)	(前月比	101. 4%)
A4	2,431円	( "	101.0%)	( "	100.0%)
А3	2,235円	( "	104.2%)	( "	100.7%)
A2	1,962 円	( "	105.3%)	( //	101.0%)



#### 交雑去勢 (月平均)

В4	1,757 円	(前年同月比	106.2%) (前月比	99.7%
В3	1,649円	( "	111.2%) ( "	98.9%
R2	1 541 円	( 11	114 7%) ( ""	98 0%

## 乳牛去勢 (月平均)

B3 なし

B2 1,015 円 (前年同月比

98.0%) (前月比 98.6%)

# <7月の牛肉輸入量予測>

財務省が発表した輸入通関実績による 5 月の牛肉輸入量は前年比 10.3%減の 4 万 8, 560 t と前年を下回った。チルドは同 7.2%減の 2 万 3, 120 t 、フローズンは 12.9%減の 2 万 5, 440 t となった。前月の新年度の関税引下げの影響などでフローズンを中心に大量輸入となりその反動で大きく減っている。

農畜産業振興機構の予測による 7 月の牛肉輸入数量は、前年比 10.5%減の 5 万 8,600 t で、チルドは同 0.9%減の 2 万 5,700 t、フローズンは同 16.7%減の 3 万 2,900 t としている。とくに、フローズンでの 2 ケタの減少については、前年に第1四半期の関税緊急措置 (SG) の発動が懸念され、発動回避のため通関が 6 月から 7 月に繰り延べられた影響などで、今年の 6 月は前年同月を大きく上回り、7 月は大幅に下回るとしている。

輸入牛肉通関	量	5月	前年同月	前年同月比
	豪州	10, 263	11, 516	89.1%
チルド	米国	11,059	11, 989	92. 2%
	その他	1, 798	1, 410	127.5%
	合計	23, 120	24, 915	92.8%
	豪州	13, 062	17, 127	76.3%
フローズン	米国	8, 504	8, 894	95.6%
	その他	3, 874	3, 203	120.9%
	合計	25, 440	29, 224	87. 1%

単位: t

出典:食肉速報

# <7月の全国出荷頭数予測>

家畜改良センターの発表による 5 月末現在の全国飼養頭数は 385 万 1,056 頭 (前年同月比 0.1%増) とほぼ前年並みで、前月比では 3,000 頭の増加となっている。黒毛和種は165 万 7,331 頭 (同 1.3%増) で前月比では約 6,000 頭増となり、交雑種は 49 万 5,088 頭 (同 4.2%減) で前月を約 3,000頭下回った。ホルスタイン種雄 (去勢) は前月比で 1,800頭減少し、雌は 500頭程増加している。また、牛飼養施設数は5 万 8,794 カ所 (同 3.6%減) と、黒毛・交雑施設共に減少を続けている状況となっている。

農畜産業振興機構による 7 月の全国出荷頭数予測では、 前年比 0.7%増の 9 万 5,600 頭で品種別にみると、和牛が同 5.3%増の 4 万 5,100 頭、交雑種は同 7.3%減の 2 万 600 頭、 乳用種は同 0.1%減の 2 万 8,500 頭としている。交雑種、乳 用種は前月に続き減少となっている。東京食肉市場の 7 月 と畜頭数は 7,800 頭を予定している。

## <7月の牛枝肉相場見通し>

入梅時期に向かって需要の落ち込む時期であり、和牛は 出荷頭数も増加傾向にあることから、やや弱含みの相場展 開か。交雑牛は需給予測でも顕著な減少が見込まれており、 引き続き堅調な相場で底堅い展開が今後も続くと予測され る。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2, 750~2, 850	B4	1,700~1,800
A4	2, 400~2, 500	В3	1,600~1,700
A3	2, 200~2, 300	B2	1,500~1,600
A2	1, 950~2, 050		
乳牛去勢			
В3	1,050~1,150		
B2	1,000~1,100		

# 小動物事業部

5月の全国と畜頭数は、前年同月比 1.8%減の 135 万 5,675 頭と前年より減少した。また、5月の豚肉通関数量は、8万 4,467t (前年同月比 5.2%増)となった。内訳はチルドが 3万 5,004 t (3.8%増)、フローズンは 4 万 9,463t (6.2%増)とそれぞれ増加となった。

	2018-2019 年の需給量と推定期末在庫						
	供給量		推定期	推定期末在庫		回り量	
月	生産量	輸入量	国産物	輸入物	国産物	輸入物	
5	76, 152	80, 227	19, 021	161, 265	75, 842	78, 175	
6	69, 573	76, 677	17, 434	161, 087	71, 104	76, 855	
7	68, 709	78, 084	17, 332	158, 705	68, 762	80, 466	
8	70, 135	79, 654	18, 182	157, 848	69, 223	80, 511	
9	67, 675	68, 972	18, 048	149, 511	67, 772	77, 309	
10	82, 053	83, 979	18, 178	147, 729	81, 863	85, 761	
11	82, 254	83, 346	18, 435	144, 982	81, 925	86, 093	
12	79, 338	73, 146	19, 394	140, 967	78, 307	77, 161	
1	79, 477	61, 703	19, 643	144, 246	79, 203	58, 424	
2	75, 590	81, 638	19, 818	147, 097	72, 334	78, 787	
3	74, 058	68, 303	21, 221	145, 268	72, 588	70, 432	
4	77, 788	98, 235	22, 544	167, 222	76, 406	76, 281	
5	75, 254	84, 396	21, 643	184, 963	76, 085	66, 655	
比	98.8%	105. 2%	113.8%	114. 7%	100.3%	85. 3%	
₩ . ₺	比・最終日の前年同期比 出曲・農畜産業振興機構 単位・+ %						

比:最終月の前年同期比 出典:農畜産業振興機構 単位:t、%

5月豚肉通	5月豚肉通関実績				単位:t、%		
国名	冷蔵	前年比	国名	冷凍	前年比		
アメリカ	18, 266	106. 5	デンマーク	9, 428	98.8		
カナダ	15, 799	101.6	スペイン	9, 755	94. 2		
メキシコ	936	92. 7	メキシコ	8, 458	135. 6		
			アメリカ	4, 827	103.8		
			カナダ	3, 131	86. 9		
合計	35, 004	103.8		49, 463	106. 2		

#### <6月の豚取引の推移>

上旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
3 日	56, 200	634	615	621
4日	63, 800	648	630	678
5日	58, 500	633	611	648
6日	63, 600	630	595	705
7日	58, 100	626	595	751
10日	61, 100	606	578	683
11日	62, 800	617	590	884
平均	60,585/日			710/日

出荷頭数は全国的に減少傾向にあり、6万頭を割り込む 日もあった。豚コレラやPEDなど疾病の影響や異例の気温 上昇となったことも出荷頭数に影響した。

中旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
12 日	57, 300	608	582	657
13 日	63, 300	532	516	778
14 日	61,600	571	556	790
17日	58, 500	580	548	698
18日	62, 500	615	595	707
19日	60, 700	603	578	700
平均	60,650/日			721/日

引き続き枝肉相場は実需以上に高値で推移しているが末端消費は鈍く部分肉相場は全体的に下げ基調にあり、荷動きは鈍化している。

下旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
20 日	63, 500	575	538	734
21 日	59, 900	575	556	755
24 日	62, 700	560	548	666
25 日	64, 400	583	558	839
26 日	54, 800	558	545	744
27 日	64, 500	557	513	871
28 日	62, 300	543	524	964
平均	61,728/日			796/日

枝肉相場は上旬に比べると下落傾向にあり、500円台半ばで推移した。引き続き末端消費は鈍く、部分肉の荷動きは全体的に鈍い状況にある。

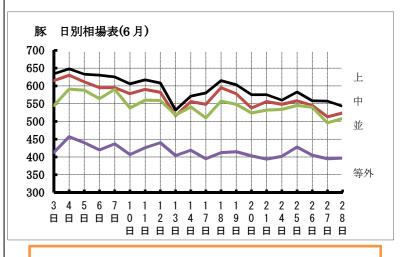
### <7月の豚枝肉相場見通し>

農林水産省による 7 月の全国と畜頭数予測では 128 万 1,000 頭(前年比 101%) と予測している。当市場の 7 月集 荷予定頭数は 1 万 7,100 頭、1 日あたりでは約 777 頭を見込んでいる。

農畜産業振興機構によると7月分の豚肉輸入見込数量は、総量で7万7,400t(同99.1%)、内訳はチルドが3万2,400t(同99.8%)、フローズンは4万5,000t(同98.6%)と予測。 冷凍品輸入量は中国の買い付けの増加などにより一部の輸出国において現地相場が上昇しているものの前年同月をわずかに下回る程度と予測する。

7月は出荷頭数が減少する時期でもあることに加え、豚コレラや PED の影響により全国的に出荷頭数は予想を下回る可能性がある。また、荷動きについては梅雨明けまでは全体的に鈍い状況となりそうだが、下旬にかけて夏休みなどの行楽需要でロース、スペアリブなどの引き合いは強まりそうだ。一方、夏休みで学校給食が中断することもあり、ウデやモモといったスソ物は冷蔵品、冷凍品ともに引き合いは弱まりそうだ。

以上のことから当市場の上物平均価格は 580 円前後、中 物平均価格 560 円前後の展開と予測する。



#### 出荷者の皆様へ

<u>PEDをはじめとする様々な病気を予防するため、防</u> <u>疫体制を強化しております。生体車の消毒など、衛生担</u> <u>保のため、引き続き皆様のご協力をよろしくお願いいた</u> します。

東京都港区港南2-7-19 東京食肉市場株式会社 TBL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127 URL http://www.tmmc.co.jp/